

効果的なランゲージ・エクスチェンジのために

スティーブン・ヌスバウム教授

効果的にランゲージ・エクスチェンジを続けるための2つのポイントは、(1) パートナーとよい信頼関係を築くこと、そして(2) パートナー同士がお互い効果的と考える方法で時間を共有することです。たいていの場合、パートナー同士会って時間を共有していくうちに、1学期または1年間持続させる効果的なエクスチェンジの進め方を探り当てていけるでしょう。ランゲージ・エクスチェンジは、本人たちのためのものですので、どんな方法であれ、参加者自身がよいと思う方法であれば、うまくいきます。

以下の提案は、そのプロセスを円滑に進めるためのものです。どうすればベストな方法でパートナーの外国語能力向上を手伝ってあげられるでしょうか。もしかしたらあなたのパートナーはすでに外国語での読み書きが堪能で、話すスキルのみをブラッシュアップしたいと考えているかもしれません。逆に、その外国語についての知識が受身的なものにとどまっている人もいます。例えば、日本人学生の多くは、何千もの英単語と英文法の基礎を学んではいますが、概してそれらの知識は受身的です。海外から日本に来る留学生も、数年間日本語を勉強していても、受身的な知識しか身につけられていないかもしれません。

一方、外国語をまだ学習し始めたばかり、という人もいます。以下に述べる方法では、初級者グループ（語彙力が限られていて、基礎的な文法知識もまだ十分でない人）向けと中・上級者グループ（語力が豊富で、基礎的文法がしっかり身についている人）向けの2グループに分けて紹介しています。

高名な哲学者は、ある言語をよく知るためには、実際にその言語が使用されている地域でかなりの時間を過ごす必要がある、と指摘しています。また、昨今多くの言語は少なくとも、2つの領域に分けられると指摘しています。まず一つ目は、いわゆる「オールド・タウン（旧市街）」と例えられるように、誰が聞いても、その話し手の出身、文化がわかってしまうような、いわば典型的、古典的な部分です。そして二つ目は「ニュー・タウン（郊外）」のように、新しく特異な言語が発生してくる部分です。例えば、ほとんどの人は家族とともに育ち、多くの時間を学校で過ごします。話す能力というのは、その文化を織り成している人々との交流により、その地域や言語など共通意識の中で構成されていきます。一方、さまざまな言語では、郊外にどんどんできる「ニュー・タウン」のように、新しい言語領域が出現しています。これらは例えば、インターネットや携帯電話、パソコン、コンピュータープログラムなどとの関係があります。若い大学生は、彼らの両親や祖父母に比べて、これらの新しい言語領域についてずっとよく理解しています。しかしながら、これらの領域の技術的な部分まで理解している学生はほとんどいません。私たちのほとんどは、これらの領域のまだほんの初期段階に乗り出している程度に過ぎません。哲学者は、人々が相互理解するためには、全員が共有する「オールド・タウン（旧市街）」の部分に重点をおかなくてはならない、と指摘しています。この洞察に基づき、これから掲げる提案は、外国語学習者たちにとって役立つ言語や思想の鍵となる部分に焦点をあわせるように薦めています。

初級レベルの学生とエクスチェンジを行う場合

初級レベルの学生とエクスチェンジを行う場合、ネイティブ・スピーカーは語彙や文法をパートナーのバックグラウンドに合わせてあげる必要があります。おそらく一番簡単な方法は、パートナーの語学の教科書を見せてもらうことです。教科書に載っている文章や語句のパターンを会話の中でも使ってあげるようにしてください。もちろん、教科書の範囲を越えて新しい表現を紹介してあげてもかまいませんが、パートナーは、次から次へと新しいことを学び続けるよりも、すでに学習済み、もしくは部分的にでも学んだことのあることがらを繰り返し使う機会がある方が、より早く言語を習得していくことができる、ということを覚えておいてください。会話のほとんどの時間は、新しいことをどんどん紹介するより、パートナーがすでに学んだことのある用語を使ってあげましょう。この場合、パートナーが認識しているいわゆる「オールド・タウン（旧市街）」とは、テキストに記されている語彙、文章パタ

ーン、文脈ということになります。あなたの役割は、パートナーに新しい言語を紹介しつつ、「オールド・タウン（旧市街）」の領域をマスターするお手伝いをすることです。

中上級レベルの学生とエクスチェンジを行う場合

一方、中上級レベルの学生は、知っておく必要のある語彙やその言語の文法構造のほとんどをすでに理解しています。これらの知識の大半は、どちらかという受身的です。いわば彼らは、一定距離を保ちつつ、その言語の領域を眺めているような状態です。必要なのは、実際その言語領域に入り込み、その領域の人々がどのようにその言語を使っているのか学ぶことです。自分自身の経験を語る際、いかにその言語を使うのかを学ぶ必要があります。言語がいかに経験や理解を形作っているかということは、外国語と文化を学ぶ重要な側面です。以下に、パートナーがあなたの言語や文化を学ぶ際の手助けとなるポイントをいくつか挙げます。

- 1) 単なる「語学相互学習」ととらえず、パートナーの文化を学ぶようにしましょう。「人類的な」イメージを広げてください。これは、全体的な文脈で人々や彼らの物語を理解することにつながります。
- 2) お互いに“Native Informant”となりましょう。“Native Informant”は外来者からの質問に繰り返し答えるという経験が豊富な人です。異なる文化を有するパートナーにとって、自己の文化の中でどの部分が異質と感じられるのか、見極める力を養いましょう
- 3) 事前にテーマを決めておきましょう。そしてそれぞれがそのテーマに基づき、パートナーとシェアしたい簡単なストーリー（体験談）を1つか2つ考えておきましょう。話はあなた自身の経験に基づいたものにすること。2～3分の短い話でかまいません。体験談は必ず自分の母語で話すようにして下さい。パートナーにあなたの生活や経験のなかで実際に使われるような言語を紹介する、ということを忘れないようにしましょう。
- 4) 相手の話を遮らないようにしましょう。話を最後まで聞くようにしてください。それから、あなたがその話をきちんと理解できたかを確認するために質問し、必要に応じて、理解できなかった部分をもう一度繰り返してもらうようにしましょう。
- 5) 次に、その物語の社会的、文化的背景について質問をして下さい。お互いの体験談や生活について視野を広げましょう。こうすることで、外国語能力またその文化の理解力を高めることができます。
- 6) 相手の話をあなた自身で繰り返してみましょう。これは非常に有益な語学学習となります。

例えば、単なる誕生日パーティに関する話を、多種多様な議論に発展させることも可能です。なぜ誕生日パーティには特定の人だけ招待されたのか？ その背景にはどんなソーシャルネットワークがあるのか？ 誕生パーティ以外で、どんなときにこの人たちは集まるのか？ それ以外にはどんなことをするのか？ プレゼントはどうやって選ばれたのか？ いくらだったのか？ プレゼントの値段はみんな同じだったのか？ それとも誰かもっと高いプレゼントを持ってきたのか？ それはどういう意味か？ 年とともにパーティはどのように変わっていくのか？ それはなぜか？ ゲストと誕生日を迎えた本人にとって、パーティの意味や重要性はどのように異なるのか？ 年をとるお祝いごとや記念として、あなたの社会では他にお祝いする方法はあるか？ などなど・・・。

このような議論を重ねることで、語学力や異文化に対する興味や知識は確実に伸びるはずです。また、練習を重ねるごとに、ランゲージ・エクスチェンジやカルチュラル・エクスチェンジをしているとあっという間に1時間すぎてしまうようになるはずです。ランゲージ・エクスチェンジを楽しんでください！